

磐梯町官民共創・複業・テレワーク審議会記録

(第3回審議会)

会議日時	令和3年1月26日(火) 午後3時10分 開会			
	午後3時57分 閉会			
場 所	オンラインにより開催			
出席者数	委員定数 6 名中 出席者 6 名			
出席委員	小田 理恵子		玉置 真悟	
	小澤 綾子		五十嵐 大輝	
	尾崎 えり子		中嶋 貴子	
欠席委員				
出席した者	磐梯町 CDO	菅原直敏		
	デジタル変革戦略室長	穴澤竜一		
	地域おこし企業人	星 久美子		
書 記	デジタル変革係長	長 泰志		
付議案件	<p>磐梯町官民共創・複業・テレワーク審議会</p> <p>(1) 報告事項 (仮称) 磐梯町官民共創プロジェクト認定制度の名称について (穴澤；説明)</p> <p>(2) 協議事項 ① 官民共創について</p> <p>(3) その他 審議会の日程について 定例化について。 原則；毎月第3木曜日 16：00～</p>			
会議の概要	(別記のとおり)			

【会議の概要】

- ・ はい、それでは定刻となりましたので、ただいまから第3回磐梯町官民共創テレワーク審議会を次第により始めさせていただきます。(穴澤)
- ・ 2の会長挨拶に移らせていただきます。小田会長よろしく願いいたします。(穴澤)
- ・ はい、よろしくお願いします。皆さんこんにちは。3回目の審議会ということでよろしくお願いします。あの当初はですね、皆さん多分直接この時期現地でお会いするという形でありましたけれども、コロナの件もありまして、今回もオンラインという形になりました。とはいえ、そういった形で本当に柔軟に対応できるのはこの審議会のいいところなのかなとも思いますので、また、皆様ですね忌憚なきご意見をいただきながら良いものをつくっていければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。(小田)
- ・ はい、ありがとうございました。(穴澤)
- ・ それでは3の議事に移らせていただきます。審議会要綱第5条第2項の規定により、小田会長、議長をお願い致します。(穴澤)
- ・ はい、賜りました。では議事進行進めさせていただきます。まず、1に報告事項ということで、(仮称)官民共創プロジェクト認定制度の名称についてということでございます。こちら穴澤課長の方からご説明よろしくお願い申し上げます。(小田)
- ・ 私の方から(仮称)磐梯町官民共創プロジェクト認定制度の名称についてでございます。本認定制度はですね、広く周知する際にネーミングが重要であり、親しみやすくわかりやすい名称といたしまして、宝ラボということといたしまして、副題で磐梯町官民共創認定プロジェクトとしております。宝はですね、民謡会津磐梯山に宝の山よと謳われておりますとおりですね、磐梯町におきましては四季折々の自然、名水など様々な恵みをいただいております。名水を利用された日本酒やミネラルトマトなどの農産物、さらには、今の時期でございますと、スキー場といった、まさにこの磐梯山から宝として恵みをいただいておりますので、その宝というのを採用させていただきました。ラボにつきましては研究所を意味し、先進的な取り組みをさせていただいております、横瀬町さんの横ラボを参考にさせていただいたところでございます。なお、今後ですね、制度設計、組織、審議会の委員の方々などを詰めまして、制度が拡充いたしましたら、その際にはまた本審議会の方にご相談させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたしたいと思っております。報告事項、私からは以上です。よろしくお願いいたします。(穴澤)
- ・ ありがとうございます。今回は報告事項ということで、プロジェクト認定制度の名前が宝ラボというふうになりましたということでした。今後は、この審議会の中で宝ラボという名称を使って今後ご報告なされるということで、それぞれの審議をなされるということでよろしいですね。はい、ありがとうございます。名前についてご意見等ある方いらっしゃいますでしょうか。(小田)
- ・ 大丈夫ですね。はい、ありがとうございます。では、報告事項は以上とさせていただきます。次に協

議事項の方に入れさせていただきます。

協議事項、官民共創についてということですが、菅原 CDO の方から説明よろしくをお願いします。(小田)

- ・ はい、ちょっと喉の調子が悪いので、お聞き苦しいところがあるかと思えますけれども、お願いします。(菅原)
- ・ お風邪ですか。大丈夫ですか。(小田)

- ・ はい、すいません。協議事項ということで、官民共創に関する現状・課題・展望及び論点についてということですね、大きく4つほどのテーマを設けさせていただきましたので、私どもの持っている現状と課題意識を共有させていただいて、皆さんから忌憚のない議論をいただいて、いろいろご意見をいただけたらと思います。

まず、官民共創という大きなくくりなんですけれども、磐梯町では元々官民共創というものを模索し始めているところなんですけれども、官民連携と官民共創というものを意図的に使い分けて使っております。世の中では一緒に使うというところもあると思うんですが、磐梯町では分けて使っているところがまず一点ございます。

どういう分け方かということなんですけれども、官民連携はどっちかっていうと、見た目の部分の連携という色合いが強いニュアンスと私どもはとらえておりまして、例えば PFI とか業務委託や指定管理者制度など制度とか枠組みを使って一緒にやっているというところの色彩が強い部分がございます。

なので、イメージとしてはお互いの目指してる方向が違っても、外見のアウトプットが出てくればそれでいいですよというニュアンスです。なので、道路とか土木工事みたいなあんまりミッション・ビジョンとかじゃなくて、ただ形を作っていく部分には極めて有効なフレームだというふうに認識しています。

一方で、官民共創ってどのようにとらえているかって言うと、当然やる手段として PFI、業務委託、指定管理者制度みたいなスキームを使う場合もあるですけれども、大切なところというのは、官、磐梯町であったり、事業者の皆さんと個人の方々が一緒に何かをするときに、お互いにミッション・ビジョンをある程度共有して、お互いに形だけじゃなく、価値を作っていくことを目指しております。

どうしてこういった表現を使わせて頂いているのかと申しあげますと、従来のようにある程度答えが分かっていることであれば官民連携という枠組みで、予測可能性もたてられて物事を進めてこれたんですけど、特にデジタル変革とかもそうなんですけど、答えが定まってないというものに対して、今の既存の形だけ作ればいいという枠組みになりますと、よくありがちな計画は作りましたとか、何々は作りましたが魂は入ってませんというような、形式的なものだけが出来上がって、実際町民のためにはならない物が出来上がってしまうみたいなことも、結構公共性の中では往々にございまして、そういった試行錯誤の中で、官民ともに作っていくというところで形だけでなく価値にどういうふうにコミットしてけばいいのかみたいなアウトカム志向の考え方として官民共創というものを用いさせていただきます。

そういった中で、一方、官民共創というのは言うのは優しいんですが、やるのはすごく形として難し

いと言うところで、やはり人材の部分であったりとか、設計の仕方であったりとか、日々試行錯誤をしております。先ほど室長より名前をご説明させていただきました宝ラボも、試行錯誤の一つの形だという風に捉えていただければと思います。

そういった中で、まず、一点目。官民の分類の是非についてということなんですけど、一応、便宜上官と民という分け方を使わせていただいておりますけれども、これはわかりやすさという点でございまして、最終的には私ども官と民も違いはないと、みんな一緒に作っていく。ただ共創があるだけだというふうに考えております。ただ、一方で、世の中、特に日本はですね、行政と民間の人たちの人材の流動性というのが、非常に低い現状がございまして、そういう中で、どうしても官と民いうものをあらかじめ意識しなければ中々物事が進まないという、現状がございまして。

だんだんとプロジェクトに関わっていただく方々は、そういった意識は薄れていくんですけど、官と民という根強く残っている意識というもの、こういったそうんざいというものをどうやったら皆さんがあまり意識せずにかかわっていただくことができるのかみたいな、ちょっと抽象的なんですけどこういったところについて皆さんのご意見をいただけたらなあと思います。

続いて2点目、共創の意義について、ともに作るクリエイションということですけども、先ほど説明したような文脈で磐梯町では官民共創という言葉を使わせていただいております。そういった中で、最近、磐梯町に限らずいろんな自治体で、包括連携協定とかあるいは実証実験とかなされるんですけど、どうしても結んだところですね、いったん盛り上がりはくるんですけど、そのあとだんだんピークアウトしていったか分からないみたいな事例が結構起こっています。なので、磐梯町はそういったものを結ぶに当たっては相当時間をかけて、お互い考え方をすり合わせて、それが合わないというときはやらないという形にはしているんですけど、とはいえ、活性化しているのと、そうではないものが出てきてしまう現状がございまして。

なので、こういったお互いが積極的に手を結んで何かを作っていくようになった時に、その実効性をその瞬間だけではなくて、本当にこの先も続けて担保していく仕組みも作っていききたいという風に考えております。

なので、そういった時に私どもは町側の人間なので町の視点でしかやっぱり物事が見れませんので、逆に民間の立場とか、個人に関わる人の立場からはこういった部分を求めて町に関わる、そういった設計を作っていけばいいのかですね。相互のWinをどうやって作っていくのかという上手なやり方があったら、そのところもご知見をいただけたらという風に思っています。

3番目なんですけど、個人企業等が行政に関わりやすい環境整備についてであります。さきほど会長の方からもですね、磐梯町はオンラインで審議会をやっているからこのままどんなことがあって審議会できるっていうようなご意見、お言葉をいただいたんですけども、これもひとつの形だと思っておりますけど、いかに磐梯町以外の方に寄りやすい環境を作っていくのかということが、結果的に磐梯町に関わりたいというような個人の方であったり、企業の方が来ることによってプロジェクトがどんどん生まれて活性化する言う風に捉えております。

こういったところで、やっぱり行政の制度ってどうしても上から目線のところが多くありますので、こういったものを改めて関わっていただく側の立場に立って、再構築していくにはどういった障壁があるのか、どういった視点を持った方がいいのかというところをですね、改善点を含めてご示唆をいただけたらと思っております。

最後なんですけども、住民が官民共創に参加できる環境環境整備について。この官民共創の取り組み

というのは、暗黙的にはですね、町の外の人たちと一緒にやっていくということから始まっております。ただ一方で、よくよく考えてみますと、本当にいろんな企業の方と個人の方が町外から来てくださるんですけども、むしろ、そういった方々も含めて、住民の方たちとも一緒に共創していけるということをやっていると、もっともっと、町は活性化していくのではないかと考えております。

ただ、やはり分野によっては、町民の方の意識感やレベル感とやはり首都圏の方の意識がちがったりしますので、いきなりガシャッと同じ場所に置いたからといって、物事が進んでいくとも思っておりません。

なのでだんだんとでもいいですけど、町民の方にも本当にいろいろ多様な方がいらっやって、そういった町民の方たちを巻き込んでいくためには、どういうアプローチがあるのかな、そういった部分のご意見もいただきたいと思います。

ということで以上4点、それ以外に何かございましたら皆様に協議していただきたいと思います。よろしく願いいたします。(菅原)

- ・ 私も、あの、喉がちょっときゅうにおかしくなっちゃいましてすいません。ちょっと失礼します。ちょっと移りました。申し訳ありません。

今、菅原 CDO の方から4点ありました。簡単にいうと、まず、官と民が意識をせずに関わっていくにはどうしたらいいか。もう一つが、官と民が実効性含めてずっと長く双方の Win を保ちつつ関わっていく仕組みってないのだろうか。もうひとつが、磐梯町以外の人のどうやってかわりを持ってもらうか。最後が住民がさらにそこにどうやってかかっているのかがいいのかという4点についてご提示いただきました。

今回はですね。これを一件、一件というよりは、町と人、いろんなステークホルダはどうやって関わっていくのかって話だっって認識しましたんで、皆さんのご経験とかお考えで、そこにとらわれずご意見いただいてもいいのかなと思います。あるいはこのテーマに関してはこういう風に思いますという話でも宜しいかと思しますので、ちょっとそれぞれご意見いただければという風に思います。

まず、お話できる方挙手していただいてもよろしいでしょうか。(小田)

- ・ 尾崎さんお願いします。(小田)

- ・ ありがとうございます。官民共創ということで、私も今、様々な分野の違う人達と色々なプロジェクトをしていますが、2点今思ったことを伝えたいと思います。一つは共創の何が難しいのかということ。二つ目は共創に一体どんな人物が必要なのかということをお話したいと思っています。

一個目の何が難しいのかっていうところで行くと、使う言葉、時間感、ステークホルダー、結果、全部、官と民では違うなと思ってます。ここのズレがなんか、すべてのコミュニケーションのズレになっていって、結局うまくいかないよねってなってしまうことすごく多いんですね。特に私みたいなちっちゃい企業だと、そんなにゆっくりやってる時間はないと、早く結果を出したいと、当然行政としては一歩動くのに周りのステークホルダーがものすごく多いので、誰かが傷つく、誰かが困るっていう状況にならないだろうかっていう検証が当然必要で、なんかそういう民間のスピード感と、ステークホルダーで取りに行く結果とスピード感と行政のそれが違うと、やっぱりうまくプロジェクトがいかないなという風に思うことが多いです。ここの4点のズレをどうやって解消していくかっていうところが多分お互いをリスペクトしたりお互いの立場をちゃんと理解するっていうのは、プロジ

ェクトを始める前にすごく必要な事なのかなと思ってます。

二点目のどんな人材が必要かというところなんです、共創って何となくいろんな人たちが関われば共創みたいな感じになって聞こえることが多いんですけど、多くの人に関わると、一般的な意見しか結局落ちないですね。みんなが幸せになるっていう風になると。なので、ほんまの共創は本気でそれを覚悟を持って進めて、なんかもうちょっとあの狂ってるぐらいそれをやりたくてたまらないみたいな人が、結局全ての意見を参考にして自分の感覚で決めるって事して行かないと、前に進んだりとか、または、全然今までにないようなものを作ってくっていうのは結構難しいなと思っているので、共創といっても意見を集約するということと共創するのか、決めるということと共創するのか、どこのタイミングでいろんな人たちを巻き込むのかっていうことによって変わってくるし、最後は分野にもよりますが、やっぱり一番覚悟を持って責任持つ人が独断で決めるっていうのが私は官民共創がすごくスムーズに行く方法なのかなと思ってます。以上です。(尾崎)

はい、ありがとうございます。尾崎さんらしい意見だなと思いました。

生駒でも色々ね、尾崎さん取り組みなされてると思うんで、そういったとこのご経験もあるのかなってお聞きしながら思いました。

皆さん、他の方も、それぞれのご意見とか今の話も踏まえてございますか。

はい、小澤さん、お願いします。(小田)

はい、ありがとうございます。尾崎さん、さすが色々やられてだけあって、なるほどと思って意見をお聞きしていたんですけども、私も官民に限らずですけども、違う人たちが共創する時に、やっぱりルールが全然違うので、なかなかその同じ方向を向いてやっていけない、方向を向いたとしても、物が出来上がるまでに解散してしまうっていうパターンは今まで多かったかなと思いますので、さっきも尾崎さん、仰ってましたけれども、相手のルールをお互いによく知ってるところから始められたらいいのかなと思います。何かお互いのその共通言語と言うかグランドルールみたいなものがあると安心して物事を意見も言えますし、一緒にやっていけるのかなと思います。一緒にやる時ってなかなか手探り、手探りで相手の様子を見つつ進めるところがあると思うので、やっとプロジェクト終了段階にて、グランドルールが分かってきたみたいなパターンも多いと思うので、そのそうですね、スピード感を失わないと言うか始めから共創・クリエーションができるためにも、このお互いを知るルールを統一化させるというのは重要なのかなという風に思っております。

あとですね、今日色々な議題上がっておりますけども、町民の方に関わってもらう方法と、町民の方以外にも関わってもらう方法っていう所で少しお話しさせていただくと、ぜひこのプロジェクトも含めてなんですけれども、磐梯の皆さんにも自分事に関わってもらえる方が増えたらいいなという風に思っております。そうですね、そのためにも可視化するっていうのが一つあると思っておりまして、今、YouTube でこのように配信もしておりますし、見える化が本当に少しずつですけども、出来てきているプロジェクトかなと思うんですけども、より町民の方々にそのデジタルに、デジタルっていうテーマでやっておりますけど、デジタルに疎い方も巻き込んで、例えばお子さんだったり、お年寄の方もですね、なんらかの方法で、あ、こういうことをしてるんだな自分が関わろうと思えばこういう風に関われるんだなみたいなものがあるといいのかなという風に思えました。そうですね。関われる方法を多様に、関わる人も多様にですけども、関われる方法も多様にところをやっていないのかなという風に思いました。なんかあのあっちこっち行ったり来たりですけど私からは以上です。(小澤)

- ・ ありがとうございます。小澤さん、ルールの話が出ましたけど、例えば、こんなことが違いますよみたいなところって例をあげれますか。(小田)
- ・ そうですね。でも、やっぱり、あのさっき尾崎さん仰ってましたけど、スピード感っていうのはかなりありますし、そうですね、日本人特有ですけども、阿吽の呼吸でプロジェクトを進めがちですけども、なるべくその文書化していくっていうのが、例えばこのプロジェクトはこれくらいのスピード感です。物事チェックポイントを設けて、こうやって進めていって、ここら辺にアウトカムをこのぐらいのレベルで出したいよねみたいなところをはじめに合意しておくと思いいますし、例えば、うちはこういう制約事項があってプロジェクトを進める上では、予算の所であったりとか、他にも制度の所でもこういう制約事項があるんですよみたいなところは、頭で、そうですね洗い出しできたりとかするといいのかなと思います。他にも多分色々色々考えたらあると思うのでそこを整理してプロジェクト憲章ではないですけど、はじめにこのグランドルールみたいなのがあって違ってくるのかなと思いました。(小澤)
- ・ ありがとうございます。あの尾崎さんが先に仰っていたスピード感話とルールとの共有ってところをもし、やるとしたら、どこまでそのスピード感をもってやれるのかってところは課題なのかなと今お聞きしながら思ったんですけども、玉置さんは、官と民と両方のご経験があると思うんですけど、このスピード感の部分で少しご意見とか、ここでこういう風にちょっと時間かかるんだよね、特に官の部分は、なんかその辺を含めてお話いただけると助かります。(小田)
- ・ 今まさに、次手あげて、ちょっとお話ししようとしてたんですけども、これってさっき CDO がお話された官民の分類の是非に関わってくる話かなと思うんですけども、やっぱり官と民とで大きな違いがあるとしたら、たぶん、意思決定の違い、官で言うと例えば議会とか、そういうものがあるでしょうし、例えば予算っていう枠組みなんかは、なかなか官と民では大きな違いとしてあるんじゃないかなと思うところですね。たぶん、議会飛ばしてじゃあ意思決定を迅速しましょうなんて話すると、たぶん、とんでもないことになるでしょうし、予算っていうものなかなかなくしてっていうのは、難しい。そういう意味では、官と民の意識、意識自体はもしかすると平準化できる余地はあるのかなと思うんですけど、それをなくすってかなり至難の技かなという気が、それっていうのは結局何なんでしょうね、単純な一自治体とか、例えば圏域とかそういうもので変えられるもんでもない、どっちかという、この国のあり方みたいな踏み込む話になってきてしまうので、ちょっとそこの部分っていうのは、そういう意味では、尾崎さんがお話されていた、違いを知るっていうのがすごい重要かなっていう、なくせなくても違いが分かっていたら、そこを埋める努力はできるのかなとちょっと思ったところがあります。(玉置)
- ・ はい、ありがとうございます。結構民間の方って、自治体さんって予算で動くので、その意思決定して、予算取りをするのって年間のスケジュールでこのタイミングじゃないと来年度の意思決定に間に合わないとか、そういうプロセスがあるじゃないですか、そこを実はご存知ない方も結構いらっしゃるんで、今、自治体さんの意思決定の年間スケジュールだとか、このタイミングでこれをやるんだと、ここのタイミングで議会に承認を得てからじゃなくて進まないみたいな、今、玉置さんのおっしゃったような、枠組み上で外せないものって、民間の方にもきちんとわかるようにお伝えするって必要なのかなっていうふうには思いました。なんかその辺ってどうなんでしょうね。穴澤さんに振

っちゃうかな。

民間の事業者さんと一緒にやられる時に、ああ、ここのところずれがありますねみたいなスケジュール感ってやっぱりご経験とかあったりするんですか。(小田)

- ・ はい、そうですね。スピード感はかなり違うなと携わって実感してるところでございます。玉置さんの方からお話がありました予算感もありますし、あと、決済がですね、やたらに多いじゃないかと思っております。代決ってということで、ある程度課長が決済できる規定は設けておりますが、事、官民共創となりますと、外部との関わり合いが非常に多いので、磐梯町で言えば最終的には町長の決済になる事案が非常に多いです。町長の決裁をいただくには、担当から係長、課長、総務課長、副町長、町長という形で、かなり決済に時間が有するというのがございます。

あと、予算の感覚で言えばですね、やはり重要な件につきましては、どうしても当初予算に計上をして、併せて出来れば町の最上位計画でございます総合計画にあげてというのが一番理想かと思っております。ただですね、昨今、今回のコロナような状況に陥りますと、総合計画にも上がってないくても対応しなきゃいけないのもございますし、もう緊急的なものにつきましては、議会を臨時的に招集をさせて頂いて臨時会を開いてまでやんなきゃいけないというのがございますので、その辺は重要度とか色々見極めて中で、予算付け等を柔軟に対応していく必要があります。

幸い、当町におきましては、DXに関する議員さんのご理解も非常に頂いておりますので、ある意味ですねよくご理解頂いておるなあと思っているところでございます。(穴澤)

- ・ はい、ありがとうございます。次、中嶋さんにお話を聞きしてもいいですか。今までのお話を踏まえてでもいいですし、市民との関わりでも良いんですけど、ご意見の方ぜひお願いします。(小田)
- ・ そうですね、身近な例と言うか、実際私がこの町でやってる例として、ちょっと官民共創と言うか、個人的なと言うか、以前もちょっとご紹介したんですけども、有志の保護者の方と、今、磐梯キッズコミュニティ協会、具体的には、磐梯キッズスポーツサークルで、磐梯町で習い事をやっぱりするのが遠いので、会津若松とか行かないとできないので、磐梯町で子供の幼児期の体づくりだったりとかいうことができるようになっていうので、スイミングだったりとか、体操教室を行っているんですけども、そういう案が出て、やっぱこういうのが欲しいよねっていう案が出て、そういうのを、保護者内で話をするんですけども、やっぱ一番最初にぶつかる壁ってというのが官と言うか、まずどこに話を持って行ったらいいんだろうというところから、ふれあいセンターの温水プール使わせてもらおうっていう場合も、どうしてもこっちはそういう磐梯町の子供達のためにやりたいって思いがあるんですけども、やっぱり行政の側からすると条例などで1時からしか使えません、で、結局同じレーンを他の利用者さんと一緒に使ってもらうって感じで、なかなか1時間くらい早く開けてもらえるってすごい助かるんだけどなあとか、意外とそういうのがやっぱり難しかったり、自由度が効かなかったりとか、どうしてもこっちはお願いペースになってしまうので、できるんだろうか、できないんだろうかみたいな感じでお願いをして、行政の方からOKが出たら、やっとな歩進めるみたいな感じで、結構こっち側としては、何て言うんですかね、やりたいんですけども、どうしても磐梯町の場合は、公共の施設を利用するしかないってことがとても多いので、そういう場所を一つ使うにしても、これはOK、これは難しい、みたいなことが結構多くて、そういうところが、なかなかやりたくても、やりきれないっていう、本当に身近な例としてそういう壁があるなってというのは実

際町民として感じたことでもあります。

実際、町の人達でも、色々なこと、町のプロジェクトがあれば携わりたいって人はすごい多いと思うので、ぜひ、この宝ラボとかも、やっぱり、こういうプロジェクトがありますっていうのを、町民の人たちにバンバン見せていって、その中で興味があるものぜひ参加してくださいって、すごいオープンにさせていただくと、すごい町民の人も参加しやすいものになるんじゃないかなと思いますし、逆に町民の人も新しい価値観を取り入れて、よりよいものになっていくじゃないかなと思いました。(中嶋)

- ・ はい、ありがとうございます。最初に尾崎さんとか小澤さんの方から官と主に企業とか事業者さん達と一緒にやる際の時間軸の話ですとか出ていたかと思うのですが、今度は官と市民の住民の方との関わり方とかそのルールとかの話だったと思うんですけど、お話し聞いてると、官民よりも、その地域の自治体と民、市民ですよ、の関わり方の所の方がさらになんていうか、その枠組みとかがないのかなーってところを今お聞きしていて思いました。

で、またお願いをしなければならないとの話があったと思うんですけど、まだ、官と市民の非常に距離が遠いのかなと、いう風にはすごく感じていて、そこはもしかしたら、官民共創ですとか、今回の枠組みの中で、何かもっと距離を近づけるための行政側の一つ、行政から近づくものってのは必要なかななんて思ったりしましたが、その辺すいません私の方がちょっと定義しちゃいましたけど、なんかそれに関連してとか、賛同でも、そうじゃなくて話でもいいと思うんですけど、ご意見とかありますか。官と市民について。

じゃあ、五十嵐さん、地元のご意見を踏まえて。(小田)

- ・ はい、僕もコミュニケーションのデザインは必要かなと思ってまして、昨日、磐梯町の拠点がある、渋谷の渋谷QWSに行ってきたんですけど、そこで地域おこしだったりに興味がある企業だったり、クリエイターの方々と結構話をしました。

そしたらですね、やっぱり磐梯町の話をしてあげるとすごく興味を持ってくださったり、実際に活動してみたいという声も多くありまして、都内、首都圏には熱量の高い方々いっぱいいるなーってこの感じてるんですけど、その熱量と磐梯町側だったり、町民の方々の熱量を合わせてあげることが必要かなと思ってます。

なので、審議会の様子だったりとかDXであったり、QWSでいろいろ実は活動はしてるんですけど、それをまだまだ町民の方々に情報開示できてないと言うか、機会損失になっちゃってる部分も多いと思うので、なんかそういう情報を町民の方々に伝えていけたらなーっていうふうに思ってます。僕らは結構デジタルネイティブなんでZoomとかも当たり前に使ってはいるんですけど、町民の方々がやっぱり一番目に触れるのってあの紙媒体の磐梯弘報っていう広報誌があったりするんですけど、やっぱりそこがコミュニケーションの起点になってるのかなとも思うんですよ。

なので、SNSとかもぜひ使いどころ、使いたいところなんですけど、目的に合わせて最適な手段を選びながらコミュニケーションをデザインできるといいのかなと思ってます。はい以上です。(五十嵐)

- ・ ありがとうございます。皆さんがお話になりたい時、挙手なりどんどん入ってきてください。中嶋さん、今の話受けて磐梯町のコミュニティですか、お母さんたち、あるいは、市民の方ってどういう風

に情報誌の情報って取ってらっしゃるんでしょう。(小田)

- ・ 今、五十嵐さんがおっしゃったような磐梯弘報っていう広報誌ですよ、だったりとか。一応なホームページもあるんですけども、私がちょっと、今日、それこそこの審議会にあたって磐梯町のホームページをもう一度見直したんですけども、政策課が作っているので、あれなんですけど、例えば、妊娠しましたと思って、妊娠したら一体どうしたらいいんだろうと思って、この磐梯町のホームページを見るんですけど、意外とそれ以降の動きがわからなかったりとかするので、まだまだ全然情報が足りないなあと思ったりとか、その市民の動きってか、動線に沿った情報ではなくて、とりあえず、この情報はあげとけばいいだろうみたいな感じにまだなってるんじゃないかなっていうところで、ぜひ、ホームページ、情報を一つにしても、やっぱりスマホで皆さん結構検索されるので、町の情報も、どうしても自らとっていく人は、自分で調べたりされると思うんですけど、そういうところに必要な情報がやっぱりあるっていう状態には、やっぱりしてほしいなと思っていて、そうですね、ホームページ一つにしても、町民の動線を考えた情報コミュニケーションツール作りをしていただけたらいいかなという風に感じます。(中嶋)

- ・ はい、ありがとうございます。今、4つのテーマでわりと広く皆さんからご意見をいただいて、今いくつかテーマ性があるものが出てきたのかなと思います。ひとつは共創して行く時の官と民の共通言語ですとかルールっていうところをどうやってお互いに理解するかっていうお話がひとつあったのかなと。

もう一つが、市民との関わりで市民に対してどういう風にお互いに情報をこれも同じですね、情報を伝え合うかというところなのかな、今の話ですとやはりそのルールの話、情報の話、伝え方の話ってところを、今後この中でも議論してですね、新しいやり方ですとか今のやり方ってのどンドンもっと広めていくようなことをしていけばいいのかなと思いました。菅原 CDO、いかがですかね。今一旦この議論を受けて。(小田)

- ・ はい、ありがとうございます。皆さんのご意見をお伺いして、本当にまずは尾崎さんの時間軸と言葉のルールとかそういったこと。また人材の部分ところというのは、まさにその通りだと思いますし、後は、小澤さんのご指摘されたのもやっぱり共通のルールを持つっていうことを早い段階からあらかじめ分かってやるというところが、意外とみんな人は分かるものだっていう前提で物事が進んで止まることを多く見てきたのでこれは、すごく大切ななあと思いました。

その上で、やはり玉置さんの立場から、行政側としてもですね、意思決定と予算の枠があるという部分が、ただ一方ですね、私これをあまり行政は言い訳にしても良くないのかなという風に思っております、何かここをブレイクする方法。

どうしてもですね行政というのは、ここまでの予算だからここまにやってくださいみたいな形で、企業の方とかにお願いしてこっちに合わせさせるんですけども、これをうまい形で担保させるようなことも今の既存の枠組み中でも、例えばできないこともないと思ったりするので、なんかそういうのも挑戦していくのも、先ほどの違いが分かれば埋める努力ができるって言う玉置さんの言葉を実践できたらと思います。

後は本当に中嶋さんから町民の立場で町は柔軟性がない、柔軟性がないというのは裏返しで言うと、法律でも何でも、しっかり、きっちり決まってるというそういう物の担保でもあるんですけども、

柔軟性を持たせて良いところと、そうでないものの仕分けができてないと思うですよ。そこを柔軟に仕分けてくという作業、そういうものを総括していくと先ほど五十嵐さんがおっしゃったようにコミュニケーションをデザインしていく形の、何て言うんですかね、官民共創のルールみたいなものを作り作っていきたいっていうのがずっとございまして、なんかそういう形にこの審議会のご意見を聞きながらしていけたらな。例えば神戸市さんとかでも、やっぱり官民共創・連携のルールみたいなものを作って彼らは彼らなりに発表してたりもするので、そういったものを磐梯町の、このちっちゃい町でもまたデザインの仕方を含めてできたらいいじゃないかなというのを思いました。(菅原)

- ・ はい、ありがとうございます。そうですね、その辺ですとか、具体の取り組みなんかもここでお話ができると、きっと皆さんにとっても、いいものになるのかなと思っているので、その辺はやっていきますね。はい、尾崎さんお願いします。(小田)
- ・ もしかしたらちょっと話を変えてしまうかもしれないんですけど、そのルールのことと、人材のことみたいな中で、これは磐梯町云々ではなく、よく官民共創の時にうまくいかないポイントとして出ると思うのが、日本文化全部が何かお金を稼ぐってよくないことだみたいな、なんか地域課題に関わるって真っ白な綺麗な心で企業さん来てくださいますみたいな、いや、それ企業じゃそもそもないからって感じですけど、それを求められるので、企業もなんか私たちは何もなんか自分達の利益は考えてませんみたいに言わないと受け入れてもらえないんじゃないとか。そもそも経済とは何かとか、政治とは何かとか、法律とは何かっていうたぶん基礎の部分をもうちょっと日本の教育でやるべきだと思っているんですけど、なんかその金儲けが良くないみたいな大きな根強い文化みたいなところを先に覆せた地域から、企業はどんどん選んで一緒にやっていくんじゃないかなっていう風には思ってます。なのでコミュニケーションデザインももちろん重要なんですけど、その元々の根強いマインドみたいなところをコミュニケーションデザインでどう変えていくかってのもすごく重要なと思います。(尾崎)
- ・ ありがとうございます。今、磐梯町としては今いろんな民間企業さんにつながって行こうって話ありますが、その辺り少しお聞かせいただいてもいいですか。どういうふうに考えてらっしゃるか。はい、菅原さん。(小田)
- ・ 今、尾崎さんがおっしゃったことも、私どもその通りだと思っております、包括連携協定とかを結ぶ時にですね、特に企業さんと結ぶ時は、企業は企業なりのやはり Win を求めてくると思うんです。なので、それがやはり最終的には、企業は経済的なインセンティブであったり、あるいは、それに関わることによってクリーンなイメージが上がってくみたいなブランディングであったり、色んなインセンティブがあるんです。なので、やはりそこはすり合わせの段階からザックバランにテーブルを広げてですね、それを形作って作業というのは丁寧にしています。なので、今関わっていただいている企業さんは、それぞれの何て言うんですかね、Win がそこにあるというのは当然でございます。ただ、その Win の先には、やっぱり磐梯町には磐梯町のミッションがあります。それは町民のためというところがあるので、その範囲内においてお互いが、本当にもんちゃくなくないと言うならば、お金儲けてあっても良いと思うんです。その結果お金が儲かっているのは全然経済にもなることなので素晴らしいことだと思いますので。ただ、これがですね、どうし

でも属人的な交渉を上手くできる職員と企業さんとの間で成り立つことなので、これをもうちょっとどんな職員であっても平準化してけるような仕組みが課題感としてあります。(菅原)

- ・ ありがとうございます。私もいち民間企業なんで、民間企業側だけの立場から行政のその合意形成の部分で、市民とか議会に対する説明の部分で、この企業を儲けますよっていうところを言いつらいつてとこところで、非常に難しいのかなってふうに見えてるんですね。それはちゃんと行政だったり、社会だったり、民間だったり、市民だったり、三方良しのちゃんと仕組みにして、それをきちんと説明していけばいいのではないかという風に思っているの、その辺りは、今後、属人的でない仕組みというところも、ここでも考えていければいいのかなと思います。

時間もわずかになってきたので、私の方から提案というか、今皆さんの話を聞きしてて、ちょっと思ったことがですね、市民に対して実行の提供の仕方とか、関わりのところ、割と全部じゃなくて、この人達にも絶対届けたいみたいなのところっていうのを作ってのも大事なかなと思っていて、特に、これからの未来を担う子供たちに対して、町がどう関わって、どういう風に情報出していくのかっていうところと、あるいは、今、デジタルの話をしなが、そのデジタルに対して疎い層、特に高齢者と言ってしまってもいいのかな分らないんですけど、そこに対してすごく関わりを持っていくってところの考え方っていうのを、少しこの中で審議してですね、磐梯町ならではの伝え方とか、仕組みができたなら面白いなあって、ちょっと思ったんですけど、なんかその辺、ご意見とかとかある人いますか。

尾崎さん、喋らなくていいですか。(小田)

- ・ 喋り始めるとめっちゃ時間かかるからめっちゃいいです。やりましょうって事で。(尾崎)

- ・ はい。お願いします。中嶋さん。(小田)

- ・ 今、磐梯町がデジタル支援員の育成プロジェクトをやってるんですね。私もその中に入れてもらって勉強させてもらってるんですけども、そのデジタル支援員というものの活用の仕方というのをそのあたりで、しっかりと作っていくという、第1段で、第2段、第3段があるのかちょっと存じ上げないですけども、ぜひ、その輪を広げていって、今回は第1回目だったので、15名の定員のところが12名くらいの方で集まったのかな、というところだったんですけど、やっぱりデジタル支援員を活用していくということで、ぜひ、やっていただくと良いんじゃないかなというふうに思っております。(中嶋)

- ・ 今、穴澤さん、手をあげられました。(小田)

- ・ すいません。頭をかいただけです。すいません。まぎらわしくて。

デジタル支援員はあとで時間を割いてご説明させていただきたいと思っております。

今、中嶋さんからありましたように、テレワーカーの講習受けた方からもなっていたと、あと、町の方で今考えてるのが、高齢者向けのDXということで、AIスピーカーなどを導入したいと考えております。そうした際はですね、どうしても民生委員さんのご協力が必要不可欠なのかなと思っておりますので、民生委員さんにデジタル支援員を兼務していただければ、より制度が充実できるのかなって、今、考えてございますので、この辺、制度設計なりができれば、また、皆さんにご相談させていただきたいと思っておりますので、その際はよろしくお願ひしたいと思っております。(穴澤)

- ・ ありがとうございます。じゃあ、そろそろ時間になりますので、今日のところ官民共創に関しては一旦このような形で締めさせていただきます。今日のは様々なテーマが出ましたので、それに関しては今後その審議会の中でもう少し議論してですね、具体的な形に行きたいという風に思います。よろしくお願いします。では、最後、その他として審議会の日程について、穴澤課長よろしくお願いします。(小田)
- ・ それでは、その他ということで、審議会の日程でございますが、定例化をさせていただきたいと思っております。原則といたしまして、毎月第3木曜日の16時からお願いしたいと考えております。次回、第4回は、2月18日16時からお願いしたいと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。(穴澤)
- ・ はい、大丈夫そうです。(小田)
- ・ また、後日ご相談させていただいてもいいですか。あの、後ほど。(尾崎)
- ・ 個別の日程調整は、基本は第3木曜日の16時ということで、それぞれ予定のある方がいらっしゃる場合は調整するという形ですよね。(小田)
- ・ はい。(穴澤)
- ・ はい、では、今日のところはこちらの方で終わらせていただこうと思いますが、よろしいでしょうか。(小田)
- ・ はい、ありがとうございました。(穴澤)
- ・ ではですね、本日の磐梯町官民共創複業テレワーク審議会の方を終了させていただきます。委員の皆様お疲れ様でした。(小田)

以上で審議会を終了し、閉会する。(15時57分終了)